

全日制実習風景



PTA活動のあゆみ

歴代PTA会長

第1代	清水 三俊	S22.06 ~ 27.03	第18代	佐藤 僑芳	07.05 ~ 08.04
第2代	坂東 良一	27.04 ~ 44.03	第19代	内山 敬一	09.05 ~ 10.04
第3代	西山 哲司	44.04 ~ 47.03	第20代	吉村 幸市	10.05 ~ 11.04
第4代	平田 繁信	47.04 ~ 48.05	第21代	濱田 健介	11.05 ~ 12.04
第5代	和田 正信	48.06 ~ 50.05	第22代	福沢 茂	12.05 ~ 13.04
第6代	畠山 五郎	50.06 ~ 51.10	第23代	福井 豊	13.05 ~ 14.04
第7代	栗山 静男	52.05 ~ 54.04	第24代	村田 泰一	14.05 ~ 15.04
第8代	山内 和夫	54.05 ~ 55.04	第25代	菊地 邦男	15.05 ~ 16.04
第9代	稲尾 実	55.05 ~ 58.04	第26代	広瀬 基	16.05 ~ 17.04
第10代	田中 亀雄	58.05 ~ 60.04	第27代	古谷 道夫	17.05 ~ 18.04
第11代	花本 哲行	61.05 ~ 63.04	第28代	古内 大己	18.05 ~ 19.04
第12代	前森 貞長	63.05 ~ H1.04	第29代	松田 光俊	19.05 ~ 20.04
第13代	小橋 義明	H1.05 ~ 02.04	第30代	秋山 雅章	20.05 ~ 21.03
第14代	松澤 晃	02.05 ~ 04.04	第31代	鈴木 彰	21.04 ~ 22.03
第15代	菅原 肇	04.05 ~ 06.04	第32代	大林 厚志	22.04 ~ 23.03
第16代	大竹 孝一	06.05 ~ 07.04	第33代	弓場 朋子	23.04 ~ 現在
第17代	高橋 真三	07.05 ~ 08.04			

PTAの活動

2011.02.02 P T A役員会

2011.02.18 P T A年度末役員総会



2011.02.28 P T A卒業メモリアル花火

2011.03.01 北海道旭川工業高等学校 卒業式

2011.04.08 北海道旭川工業高等学校 入学式

2011.04.26 父母と先生の会、体育文化後援会、工業クラブ総会



- 2011.05.09 6校（小中高）合同PTA連合会総会
- 2011.05.10 PTA 役員総会（大会議室）
- 2011.05.20 北海道高等学校PTA連合会旭川支部総会・研修会
- 2011.06.11 北海道高等学校PTA連合会全道大会 総会・表彰式
- 2011.07.23 PTA 6支部合同報告会・親睦会
- 2011.07.25 1学期終業式、部活動全国大会壮行式（体育館）
- 2011.08.17 北海道旭川工業高等学校、2学期始業式
- 2011.08.18・19 PTAバザー食券販売
- 2011.08.25・26 全国高等学校PTA連合大会 北海道大会（札幌市）
- 2011.08.27 第38回工高祭、工高祭PTAバザー実施



- 2011.08.30・31 旭工オリンピック弁当食券販売
- 2011.09.02 第17回旭工オリンピック、雨天のため中止。学校にて弁当を配布
- 2011.09.10 文化委員会行事「コアトレーニングで体を変えよう！」



- 2011.09.13 PTA役員会
- 2011.10.01 旭工PTAフェスタ前日準備
- 2011.10.02 旭工PTAフェスタ



クラブ活動の紹介

ソフトテニス部

旭工ソフトテニス部は、高体連全道の団体戦でこれまでに2度の全道優勝を果たし、インターハイへ出場しました。個人戦では過去16回、12年連続でインターハイ出場を果たしています。これは、平成11年1月に亡くなられた故・村田豊先生の偉大な功績によるものです。

現在も多くの旭工ソフトテニス部OBが、現役選手として各地の一般の大会等で活躍しています。最近では、平成16年に古田・北村組が12年ぶりのインターハイ出場を果たしました。

平成11年以降の成績は、高体連全道に10回、団体選抜道予選に7回、国体道予選に10回、インドア全道は10回、新人戦全道には13年連続出場しています。

現在、野村(H11~)を中心に、島貫(H10~)、三原(H18~)、佐藤(H22~)の4名の顧問と、1年生21名、2年生10名が、「心」「技」「体」そして「人」の四つを鍛えることを重点に全道優勝・全国出場を目標にして日々練習に励んでいます。

テニスコートは、緑が丘に校舎移転以来大がかりな改修が実施されておらず、暗渠もすっかり潰れてしまっており、水はけが非常に悪いのが現在の悩みです。

野球部

心ひとつに

現在1、2年生を合わせ39名の部員で活動しており、甲子園での勝利を目指し、心ひとつに日々の練習に汗を流しています。

過去、甲子園に2度出場している旭工野球部ですが、この10年間でも平成14年夏と平成17年夏の甲子園に出場することができました。また、施設設備もOBや保護者の皆様の協力で充実が進み、恵まれた環境で野球に取り組むことができています。

近年では毎年のように全道大会に出場し良い試合を続けていますが、甲子園まであと一歩のところまで悔し涙を流す日々が続いています。

この10年で2度の甲子園出場という輝かしい戦績を残してくれた選手達の頑張りを誇りに思うと同時に、それを支えてくださったOB、保護者、すべての部員に感謝の気持ちで一杯です。

現在は稲垣統括部長、小原部長、佐藤監督、宮澤コーチ、藤田コーチ、小川コーチの6名体制で指導に当たっています。目標を日本最北の全国制覇、目的を人間形成におき、みなさんに応援していただけるような旭工野球部をこれからも目指していきます。

サッカー部

例年、各学年20名前後の部員が入部し60名前後の大所帯で、平日は練習、土・日・祝祭日は大会・遠征・練習試合等で、更なる勝利を目指して活動しています。

全国高等学校総合体育大会北海道予選大会			
平成14年	1回戦	岩見沢東	1-2
平成15年	1回戦	岩見沢農業	0-3
平成18年	1回戦	釧路湖陵	2-1
	2回戦	北見北斗	1-1
		(PK 2-4)	
平成20年	1回戦	函大有斗	2-1
	2回戦	稚内	3-1
	準々決勝	登別大谷	0-2

全国高校サッカー選手権大会北海道予選			
平成15年	1回戦	室蘭大谷	1-6
平成20年	1回戦	札幌第一	0-3
平成22年	1回戦	函館商業	1-4
平成23年	1回戦	小樽水産	-

全道高校ユース(U-17)サッカー大会			
平成14年	1回戦	苫小牧東	0-3
平成18年	1回戦	北海道栄	1-1
		(PK 5-4)	
	2回戦	札幌第一	1-4

バレーボール部

私たちは現在、1年生9名、2年生9名マネージャー1名の計19名で活動をしています。

バレーボール人口が徐々に減少している昨今ですが、旭川工業は全道でも有数の部員数を有しており、活力を持って練習しております。

主な大会は北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会、全日本バレーボール高等学校選手権大会北海道予選会(旧春の高校バレー)、北海道高等学校バレーボール新人大会などです。

昨年は全て全道大会に出場できませんでしたが、ベスト16の壁を乗り越えることができず悔しい思いをしました。また、今年度の高校総体は地元旭川で開催され、出場権を得たのですがまたしてもベスト16の壁を越えられませんでした。

現在新チームに移行し、ベスト8以上に進めるよう、毎日練習に励んでおりますので、応援の程よろしくお願いたします。



陸 上 部

現在、陸上部は1・2年生部員14名で活動しています。ここ10年の活動を振り返ってみますと、平成16年度島根インターハイに小神（機3）が男子やり投げで出場、17年度の千葉総体では小林（電3）が男子ハンマー投げ、18年度は大阪総体に古内（自3）が男子400mH、佐藤（自3）男子ハンマー投げで2名が出場、平成20年度、佐賀総体には三浦（情3）が女子円盤投げに出場、平成21年度、奈良総体では今（建1）が女子走り高跳び、平成22年度沖縄総体では今（建2）が女子円盤投げ、吉住（電2）が男子やり投げ、平成23年度は吉住（電3）吉倉（電3）が男子やり投げ、佐藤（建3）男子ハンマー投げ、今（建3）女子円盤投げで4名の選手が北東北インターハイに出場しました。また22年度23年度には、今（建3）が本校から初の国民体育大会の女子円盤投げの選手に選出され、全国で上位と戦うことが出来るようになりました。全道・全国大会で常に上位で戦うことが出来るように日々練習に励んでいます。また本校の陸上部の伝統である歴代記録集は編集者が変わった今も「スパイクの跡」は未だ健在で発行しています。

平成14年8月、本校陸上部に永年にわたり支えてきた顧問の伊藤将憲先生がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

ラグビー部

ラグビー部は1949年に創部し、64年目となりました。OBの中には明治大学へ進学し、1年生から早稲田大学との対抗戦である「早明戦」に出場していた井川芳行さん（S48、建築）を始め、同じく明治大学ラグビー部に所属していた高橋博さん（S44、土木）など進学してラグビーを続けている方や、就職してからもラグビーを続けている方など多くのOBを輩出しております。しかし、東大阪市にある高校ラグビー憧れの聖地「花園」には未だ出場経験がありません。現在、1年生から3年生まで31名の部員が「花園」を目指し日々の練習に励んでいます。

今年はラグビーワールドカップがニュージーランドで開催され、残念ながら日本代表である「JAPAN」は予選リーグで敗退し、1勝も挙げる事ができませんでした。この大会には中標津高校出身の遠藤幸佑選手、札幌山の手高校出身のマイケル・リーチ選手が出場しました。2019年には日本でラグビーワールドカップが開催されます。その大会に、ぜひとも旭川工業高校出身者が出場して欲しいと思っております。

今年はラグビー部父母会も結成され、以前からサポートいただいているOB会とも協力して必ず「花園」出場することを誓って文章を締めさせていただきます。

山 岳 部

「登山ブーム」、「山ガール」などの言葉を耳にするようになりました。登山用具も専門店だけではなく、一般のスポーツショップでも手に入るようになりました。登山がより身近なものになったことを実感しますが、部員達には安全に登山するための知識や技術を身につけてもらい、将来自分の力で登山ができる力を備え付けてもらうことを目標に活動しています。

今年度は以下のような登山を行いました。8月の合宿登山では、水のありがたさと普段家庭で食べる食事がどんなに美味しいものか知ることができました。

- ・ 5月山行 三段山 (1748m) 5 / 21 ~ 22
- ・ 春季大会 十勝岳 (2077m) 6 / 1 ~ 3
- ・ 7月合宿 上ホロカメツク山 (1920m)
7 / 9 ~ 10
- ・ 8月合宿 黒岳 (1984m) ~ トムラウシ山
(2141m) 8 / 2 ~ 5
- ・ 秋季大会 白雲岳 (2229m) 9 / 10 ~ 11
- ・ 10月山行 永山岳 (2046m) 10 / 16

これからも登山を通して様々なことを経験し、沢山のことを学んで欲しいと思います。

バスケットボール部

我々バスケットボール部は、前野和義（平成18年度本校退職）総監督のもと、本校OB3人を含む5名のスタッフと37名の部員で活動しております。バスケット部の歴史は前野和義総監督の昭和47年の着任から幕を明けました。現野球部監督の佐藤桂一先生が昭和48年に入学し主将を務め、低迷していた活動を一気に盛り返す活躍で今日のバスケット部の礎を築いて頂きました。昭和53年の旭川地区での初優勝・全道初出場を皮切りに今年度まで全道大会出場を逃したことは無く、34年連続の全道大会出場という偉業を継続中で、なかでも昭和58年の全国大会初出場、昭和59年の夢にまで見た全道大会初制覇（全国ベスト16）を含む過去5度の全国大会に出場し、公立高校では右に出る者のいない、道内屈指の伝統校に成長できました。近年は全道大会準優勝や全道3位入賞と、あと一步、あと1点で惜しくも全国大会出場を逃す惜しい戦いが続いておりますが、平成21年度の国体予選で旭工と旭川西校で編成された旭川選抜が宿敵札幌選抜を破り、国体予選としては43年ぶりに優勝し、新潟国体本戦に出場したのが記憶に新しいところです。これもOB各位の多大なるご支援と父母の皆様のご心温まるご声援の賜と感謝いたします。今後も旭工バスケット部はさらなる勝利を目指して戦い続けます。

卓 球 部

一 活動内容

現在、部員16名。主将、佐藤稜二（自動車科3）
二年間団体での全道大会出場を僅差で逃しています。再起を目指し、日々の練習を頑張っています。

二 十年の歩み（平成13年度から）

高体連・選抜 卓球競技 北海道予選

平成14年度 旭工0：3札幌龍谷
2回戦

平成17年度 旭工2：3駒大苫小牧
北海道ベスト16

平成18年度 旭工2：3帯広大谷
北海道ベスト16

平成19年度 旭工1：3函大有斗
北海道ベスト16

平成20年度 旭工2：3北海
北海道ベスト16

平成21年度 旭工1：3中標津
2回戦

僅差で有名強豪校相手に涙をのんだ十年間でした。
努力を重ね、またチャレンジです。

バドミントン部

この10年を振り返って、平成16年までは全国大会に毎年出場し、平成13年度は選抜大会団体でベスト8平成16年度のインターハイもベスト16と成果を上げました。平成17年以降は、全道大会への出場はあるものの全道での優勝はなく、ベスト4止まりとなっています。

現在、先輩たちは、実業団で活躍している選手もいますが、多くの先輩は、全道各地で、バドミントン愛好者として地域のプレイヤーとして活躍しています。

最近の部活動は、経験者から初心者まで幅広い部員が各学年ともいて、全学年で50名近い人数を抱える大きな部活動となっています。このように、現在は全国大会に出場には至っていませんが、バドミントンという競技を通じて、自分自身にチャレンジする姿勢を養い、メンタルトレーニングの導入など、セルフをコントロールする力を養い、積極的な活動を行っています。

チームの合い言葉は「smile&challenge」（笑顔で挑戦）で、チームの理念としては、「みんなから応援される部活動」でありたい。旭工の名前を背負って、自己挑戦したと考えています。今後、先輩たちの栄光を取り戻せるようにがんばっていきたいと思っています。

柔 道 部

我が校柔道部は3年生6名、2年生5名、1年生8名で活動しています。

部の歴史は昭和62年の全国高校総体団体戦出場をはじめ、全国高校総体個人戦・全国高校選手権個人戦・国民体育大会などに出場している輝かしい実績のある部であります。平成14年以降低迷が続いてきました。

旭川支部は旭川龍谷、旭川大学高校、旭川南高校と名門校がひしめくなかなか結果を出すのが難しいところでした。しかし、今年の全道高校選手権大会では北北海道三位と久しぶりに全道の表彰台に上がりました。個人でも73kgで三位になり、部訓である『不撓不屈』の精神で、今後復活のきっかけになればと部員一丸となって毎日練習に励んでいます。



剣 道 部

旭川工業高校剣道部は、以前、学校内に練習場所が無いため、近くの緑が丘住民センターを部員から集めた部費で使用料を支払い活動していました。そのため、頻繁に練習することができず、各大会で著しい活躍をすることができない部でした。その後、柔道部顧問の先生のご好意で格技場を使わせていただけるようになり、現在は毎日練習することができるようになりました。

最近では、高体連や新人戦で個人戦、団体戦ともに入賞し全道大会出場を果たすなどしております。各地方大会にも積極的に参加し、平成22年度に北見市で行われた、「第31回白鵬旗争奪高等学校剣道大会」という全道規模の大会でベスト8という成績を収めました。また、平成23年度に札幌で行われた「北海道段別選手権・初段の部」で森平選手が3位入賞を果たし、全道で活躍する選手を輩出できる部に成長することができました。

旭川工業高校剣道部は、卒業された部員が築いてきた伝統を守り、さらに発展させていくように精進を重ねていきたいと考えています。そして、「流汗悟道」「文武両道」「活人剣」を念頭に置き、社会人としても様々な場所で活躍できる人材となれるよう、剣の理法の修練によって人間形成を目指していきます。

ボクシング部

私たちボクシング部は、古くからの先輩方も多くいる伝統ある部活動です。ボクシングは拳闘と呼ばれています。パンチ(スピード、パワー)、構え(防御、姿勢)、ステップワーク(常に有利になる動き)の三つに闘争心が求められます。リング上では一人で闘わなくてはならない、日々どのような行動を自分に課してきたかが問われる全人格が試される競技とも言えます。旭工生として自分に嘘をつかず、練習を積み重ね、人格と体力・技術の向上に努めることを目標に日々練習に励んでいます。また、その姿勢を後輩にも引き継いでいただきたいと思い指導に努めています。全国大会の出場は、平成16年以前は一階級で二名が全国大会に出場でき、本校の先輩方も出場していましたが、平成17年以降は全道優勝一名のみの出場で、近年全国大会に出場していません。目標は全道大会で優勝し全国大会出場です。人格と技術をより向上させ、ぜひ一人でも多く達成したいと考えています。

スキー部

数年間休部状態でいたスキー部が5シーズン前に活動を再開しました。

それから現在まで様々な種目の選手が活躍してきました。

スノーボード(AP, SBX)選手、アルペンスキー選手、そして現在は基礎スキー選手が2名います。

スノーボード選手、アルペンスキー選手は全国規模の大会(全日本選手権、インターハイ等)に何度も出場してきました。

現部員の1年生2名は基礎スキーという大会の数も限られるマイナーな種目の選手ではありますが、これからの活躍に期待してください。

吹奏楽部

吹奏楽部は昭和31年に誕生しました。吹奏楽コンクールには昭和三十二年以降連続して出場し、全道大会さらには全国大会へ出場するなど数々の実績を上げていきました。

現在は未経験者が半数をしめる中、「金賞を狙える演奏を真剣さの中に楽しみを」を目標に掲げ、北海道音楽大行進・高文連音楽発表大会・吹奏楽コンクールを主な活動としています。その他、緑が丘地区の丘の上ふれあい音楽祭、野球応援なども活動の場とし、日々の練習に励んでいます。また今年度は、北海道音楽大行進のアフターコンサートや、旭川吹奏楽祭に積極的に参加して活動の場を広げてきました。

平成20年に始めた演奏会は、今年度で5回目を迎えます。現在、部員が15名前後ではありますが、先輩方が輝かせた栄光を再び甦らせようと奮闘努力する毎日です。



演劇部

旭工演劇部について、ちょっと客観的にみてみたいと思う。というのも、私は今春まで他校の顧問をつとめていたからだ。

工業高校という性格からか、いわゆる文化系の部活動が一部を除いてやや低調だった旭工で、演劇部は、80年代後半から90年代にかけては、その存在を全道に知られるものとなった。舞台上と狭しと繰り広げられる芝居は、ただ力まかせの野人のものではなく、男の子たちがもつきわめて繊細な感性と彼らを取りまく現代社会への疑問を、パワー全開のなかにも詩情さえあふれるものとしてみせてくれていたものだ。女の子の器用さとはほど遠い、不器用な男の子たちだけで創られていたそんな舞台は、当時の私たちからはほとんど奇蹟に見えた。そしてそれは、舞台装置に照明と音響を加えての、高校演劇の一つの典型を示したものだともいえる。旭工演劇部は、1980年に全道大会への切符をはじめ手にして以来、30年間で18回の全道大会出場を果たしている。これは旭川では群を抜く出場回数で、全道でも屈指の常連校に数えられていた。ここ数年は他校も力をつけ、指定席を譲っているが、実力伯仲してきたこれからが、いよいよ旭工の出番としておもしろい時代になると思っている。

美術部

私たち旭工美術部は、4名しかいません。運動部の多い中、地味に個人が制作活動し全道大会へ作品を出すことができました。機械科2年霜野君の「核」という立体工芸作品です。来年度は、旭川で全道大会が開催されます。自分たちで大会を盛り上げるためにも、頑張って活動していきたいと思います。



写真部

写真部は、今年全国大会の高校生写真選手権大会、通称「写真甲子園」に出場することができました。

通算5回目4年ぶりの本戦で、結果は敢闘賞でした。

3回目の出場時には、優勝という輝かしい成果を達成しています。我が部は、1961年に創部され今年で50年目の歴史をもち、部員数は現在21名が在籍しており、「写真は誰かのために」をモットーに活動しています。

普段の活動は、日々の撮影練習に始まり機材・薬品等の扱い、学校行事の撮影、カレンダーや常設展示コーナーを通しての作品発表を行っています。

そこでの成果をコンテストに応募することで表現しています。写真は、「人と人を繋ぐ力」があると言われる。今年起きた東日本大震災で改めて、これを強く感じるようになりました。撮影における人とのふれあいを通じて成長する、そんな活動をこれからも続けたいと思います。



情報処理部

情報処理部は3年前まで部員ゼロでしたが下村先生が顧問になり再立ち上げして現在は部員18名までに増えました。

活動の柱は「基本情報技術者」という難関国家資格にチャレンジすること、それに付随して学習で学んだ知識を生かして大会やコンテストなどに参加することです。

IT・簿記選手権大会では過去2回優勝していますが、ここ数年は全道で4位ということでもう少し頑張りたいと考えています。高校生プログラミングコンテストは先生の勧めで去年初めて参加し全国大会で5位になり、今年は何とか一つでも上の順位を狙っていきたく日々がんばっています。

また、他の活動として今年は旭川市で初めてのプログラミングコンテストが開催されました。私たち情報処理部は中学生に科学館でプログラムを教えたり、中学校へ出向いてプログラムを教えたりしました。大会でも中学生のサポートをしました。

情報技術の学習をしながらこれからもがんばり、旭川工業高校情報処理部はすごいと言われてもらえるようになりたいです。

新聞局

工業高校にも新聞局があるんですか？とよく聞かれる。どうも旭工における文化部のポジションはバツとしない感がある。しかし、夜9時過ぎまで原稿に向かい、ひたすら推敲に明け暮れる局員たちの迫力は運動部にも負けない。学校のため、生徒たちのためと原稿に想いを馳せる局員たちは本の剣士である。ちょっとかっこ良すぎるかも・・・。

ここ数年は全国大会にも出場できる力をつけて来ている。群馬高総文祭、三重高総文祭、宮崎高総文祭など確実に上位入賞を果たすようになった。また、全国コンクールでも着実に上位入賞を果たすようになった。でも、局員たちの目標は、全国大会に出る事ではない。教室で工高タイムスを楽しみに読んでくれる読者、旭工生がいることが最大の喜びである。学校新聞は単に新聞局のためにあるのではない。それを読む生徒たちのためにある。読者のいない新聞は単なる落書き用紙でしかない。

局員たちの想いは、生徒たちと同じ視線にある。こんな学校だったらいいのになあ、こんな仲間だったらいいのになあ、とい想いで記事を書いている。う〜ん・・・書いているはず・・・と思いたい。

工高タイムスはもっともっと成長する。日本一の新聞局になる。さあ、今晚もみんながんばろぞ。

放送局

旭工放送局では、番組制作を中心に活動しています。ここ数年では、高文連主催の放送コンテスト上川地区大会では、いくつかの部門で優勝をする事も多く、全道の大会でも上位の成績を収めています。

また、各種コンクールに参加した作品も最優秀賞から奨励賞といった受賞を続けています。

学校内では各種行事における機材の設営と操作、映像の記録にいたるまで、様々な場面で活躍を続けています。部員数も現在では30人を超える事もあり、各局員が自覚を持って人間力を高めていく部活動となっています。さらに、旭川市の青少年育成施設のPR映像制作を依頼され制作したり、高校生を中心とした情報発信番組の放送に携わったりと校外での活動も活発です。新聞やローカルテレビ局といったマスメディアにも取り上げて頂くことが多くなるなど、周囲からの注目も多くなっており、生徒達の意気込みも高まっています。今後も、番組制作をする上での取材や出会いを通じて、様々な人とのコミュニケーションから成長していく放送局の生徒達に、注目して頂きたいと思っています。



図書館

図書館員が集まらず活動していない状態が長く続きましたが、平成20年度に図書館内のリニューアルをし、それとともに局員を募り活動を再開しました。現在は6人の局員で活動しています。

主な活動内容は、月に一度発行する図書局だよりの作成と館内の整備です。特に館内の本のレイアウトや装飾に力を入れ、少しでも多くの生徒に利用される図書館作りを目指して活動しています。一年間に購入する図書の冊数も600冊を超え、以前の2倍近い本を購入するようになりました。話題の本も出来るだけ早く貸出できるようにし、この3年間で図書館の利用者数、貸出数共に10倍以上になり、昼休みや放課後は多くの生徒たちが利用する活気のある図書館になりました。

今後の目標としては、書籍だけでなくDVD等の新しいメディアもとりいれ、今以上に生徒や先生から利用されるようにさらなる工夫をしていきたいと考えています。



ロボット相撲

ロボット相撲とは直径15.4cm、外枠に5cmの白線がある鉄製の土俵上で、ロボット外形寸法20cm×20cm（高さ自由）重量3kg以内のロボット力士がぶつかり合い3分間以内で土俵外に2本先に押し出した方が勝ちという、富士ソフト(株)及び校長会が主催の競技である。

高校の部、全日本の部があり大学生や社会人等をあわせ、近年では1500台近くの参加があります。

競技種目には自ら相手を見つけ動作する「自立型」や操作員がプロポを操縦して動かす「ラジコン型」があり、高校生全国大会や国技館で行われる全日本全国大会へ数多く出場しています。

電子機械科の生徒数人が集まり、設計から始まり工作技術や回路製作と様々な技術を駆使し数ヶ月かけて完成する。小さな機体にもかかわらず、100kg以上の人間を押し出す力や秒速2.5m程のスピードがあり大会での勝敗は数秒で決まることが多く戦術が重要である。

ロボット製作には終わりがなく、色々なアイデアが形になり、毎年試行錯誤しながら技術向上をし、全国優勝を目指しがんばっています。



マイコンカーラリー

自動車科がマイコンカーラリー大会出場の活動を始めて5年目となりました。この間、電気科、情報技術科と一緒に活動したこともあります。

今年度は自動車科2年生3名、1年生3名で、12月に小樽で行われる全道大会で結果を出し、来年1月に札幌で行われる全国大会出場権を得る事を目標に日々活動しているところです。

マイコンカーはプログラムに基づいて、白線を読み取りながら自立走行するマシンで、生徒が自らハードの設計から組み立て、プログラム作成、入力、走行テスト等を経て完成させるので、これがものづくりについて学ぶ良い機会にもなっています。また、担当する教員はアドバイスのみを徹底し、生徒の考える力も養っています。

また、マイコンカーラリーの活動の中で、「親子ミニマイコンカー教室」を旭川の科学館で開催し、生徒達が小学生に「ものづくりの楽しさを教える」ことも行っています。

ロボット競技

本校のロボット競技部は平成14年に情報技術科の有志により結成され、今年で10年目になります。ここまでの成績は北海道大会で優勝2回、準優勝2回、3位3回。全国大会には平成17年から21年まで5年連続で出場しました。

本校ロボット競技部では、出来る限り単純なロボットの製作を目指しています。単純な機体は構造が簡単になるので製作時間を短くできます。また故障も少なく修理に費やす時間も減らせます。その浮いた時間を練習に充てることが出来るのが最大の利点になります。練習すると操縦技術が上がるだけでなくロボットの問題点が見えてきます。あとはその問題点を改良し、また練習。この「改良と練習」の繰り返しはロボットの完成度を上げる秘訣です。

このロボット競技大会の競技内容は毎年変わりますが、その年に全国大会が開催される土地にちなんだ課題となります。今年は鹿児島県が主催で、競技内容はロボットが鹿児島の島々を船(台車)で渡り、最後に種子島宇宙センターからロケット(ペットボトル)を打ち上げるといった課題になっています。

今年は昨年逃した全国大会の出場と、全国での上位進出を目指し、部員8名で頑張っています。

定時制 バスケットボール部

ここ10年間の定時制バスケットボール部は、決して多くはない人数で放課後に練習を重ね、全道大会へ7回の出場を果たしました。

大会が年に一度しか無いため、定体連後のモチベーションを保つことがとても難しくなります。しかし全員ではなくても練習を継続して頑張ってきたことが、この結果につながったのだと思います。そして印象深い試合として、平成20年度の支部大会の決勝戦で2回のオーバータイムとなりながら、何とか試合を制し支部代表となったこともありました。そして全道大会で勝つことが大きな壁にもなっていました。

支部代表として出場しても初戦敗退が多く、最高成績はベスト8でした。交代選手がいない中で、試合の終盤には足を引きずりながらボールを追っていました。しかし明らかなレベルの違いを感じながら、そこで戦ったことが次の世代の自信となっていたと思います。

近年の活動では部員不足が深刻化し、大会に参加することすら難しくなってきました。定時制生徒として働きながら学び、さらに遅くまで部活動に取り組むことは大変なことです。今しかできない貴重な経験として少しでも多くの生徒にバスケットを通じて、人間的な成長をしてもらえたらと思います。

定時制 バドミントン部

私が旭川工業定時制に勤務して9年目になります。その時からバドミントン部の顧問をしています。

その中で記録に残るのは、平成18年に定時制・通信制バドミントン大会の全道大会で優勝して、全国大会に出場してベスト8になったことです。

その後も日本一を目指して日々練習をしているのですが、成績は支部大会優勝で終わっています。

部員は現在8名で、全員高校生になってからバドミントンを始めた生徒です。練習は毎日行っていて、平日は放課後21:10~22:45までノックやフットワークを中心に行っています。土曜日は18:00~20:45、日曜日は

19:00~20:45まで行っています。練習時間が少ないので、早く学校に来れる生徒は、授業前にランニングをしたり、素振りや筋肉トレーニングをしています。

部の中でも先輩は後輩の面倒をよく見てくれています。また、卒業したバドミントン部の先輩や医大生、退職された先生もよく練習を見に来てくれます。部員は周囲の人たちに感謝の気持ちを持って、驕ることなく練習に励んでもらいたいと思います。そして来年は全国大会に出場し、そこで日本一になってもらいたいと思います。

定時制 卓球部

定例の練習日は月・水・金の週3日で、いつも明るく楽しくにぎやかに、そして真面目にときにはハードな練習に取り組み、実力が徐々に付けてきました。5年前の平成18年には個人と団体で全道大会に出場し、さらに平成20年にも団体で全道大会に出場した実績を持つ卓球部です。しかし、ここ数年は新入部員を迎えることができず、今年は4年生3人だけの活動となってしまいました。しかも4年生は進路に向けて資格取得の勉強で忙しく、なかなか練習する時間も取れないということもあり、残念ながら今年も全道大会へコマを進めることはできませんでした。

日々の練習を積み重ねることの大切さとともに、試合で結果を出すことの難しさも部活動を通じて学んだと思います。

うれしいことに最近待望の新入部員が現れ、10月から練習を再開することになりました。まだ人数が少ないため、団体を組めるまでには至りませんが、来年度は全道大会の当番校となる予定です。技術的なことも大きいのですが、精神面にとっても影響されるメンタルなスポーツなので、「相手に」ではなく「自分に」負けない精神力をつけられるよう練習に励みレベルアップを目指していきたいと思います。

定時制 軽音楽部

軽音楽部は現在8名のメンバーで活動しています。毎年、新入生歓迎会や食の祭典でのライブ、それから一年間で最もメインになる学校祭での演奏と活発に活動しています。

昼間の仕事と学校での授業を終えてから練習を行うので、なかなか全員がそろえることが出来ませんが、各自が自主的・自発的に練習をして、その成果をそれぞれの行事で発表しています。特に学校祭前1ヶ月程は、連日ミーティングや練習を行い、少しでも良い演奏が出来るように頑張っています。

練習は基本的には、各パートごとでの練習が中心ですが、OBの人達も時々学校に来て私達を指導してくれます。

伝統といえ少し言いすぎですが、少しずつ「旭工定時制軽音楽部」が引き継がれていけばという思いがあります。これからも後輩にも練習をしてもらって、「旭工軽楽」を引き継いでいって欲しいと思っています。

今年度は大きな行事がもう終わってしまいましたが、来年にむけて自分達のテクニックが向上するように、練習に励んでいます。メンバーそれぞれの個性がバンドを組むことで一つになって、一人では出せないような楽曲を演奏したいと思っています。

定時制 書道部

高文連の大会へ出品し続けて、9年が経過。その間、毎年のように全道大会への切符を手に入れている。実は、全道でも定時制からの出品は本校のみで、他は全て全日制。活動時間がほとんどない中での作品制作であるが、客観性の高い作品と評価を得ている。以下は、歴代特選者（全道大会出品・参加）。

- 15年度 水野博愛（建築）
- 16年度 工藤正信（電気）
- 17年度 宮本咲良（建築）
- 18年度 貝津沙耶花（建築）
- 19年度 貝津沙耶花（建築）
- 20年度 青野 渉（建築） 敦賀知徳（建築）
- 21年度 岸本知久（電気） 高橋双葉（電気）
- 22年度 武田裕太（建築） 永井利樹（建築）
- 23年度 遠藤里司（電気） 村上克仁（土木）

また、全道学校書道展・北海道学生書道展・北北海道学生書道展などの展覧会に於いても、多数の入選・入賞者がいる。今後も、生徒の活躍が期待される部活動であると自負している。

定時制 新聞局



インタビューする者や写真を撮影する者、記事を書く者やレイアウトを決めて編集する者。十三名の局員が作業を分担し、一年に四回の発行を続けているのは、もちろん読者のためである。

定時制課程で学ぶ生徒のなかには、仕事の都合で学校行事に参加できない者もいる。私たちはそんな彼らのためにも、面白くてわかりやすい新聞づくりをいつも心がけている。

教室の片隅に掲示された新聞を全校生徒が読み、そして満足してくれていると信じて今後も活動を続けていく。たとえ読者からの反応が無かったとしても。



全日制・定時制

生徒会長から



旭川工業高校は 今年で創立70周年を迎えます

全日制生徒会長 大 泉 龍 馬

70年という歳月は私には計り知れませんが、少し開校当初を振り返ってみたいと思います。我が校が開校した1941年はまだ戦時中でした。そのころは我が校にも3学科しかありませんでした。その後、電気科、機械科と、少しずつ学科が増えていき、現在生徒達は7学科に分かれて毎日勉学に励んでいます。また、部活動も運動部、文化部共に非常に盛んで、文武両道を身をもって体現するその姿勢は我が校の財産と言えます。私は先日行われた全道新聞研究大会で展示されていた戦時中の旭川工業高校を記録した写真を見ましたがその写真に写っていた生徒は、現在の旭工生と同じく、清々しい表情で学校生活を過ごしているようでした。70年間に時代の流れと共に世間では様々なことが移り変わってきましたが、旭川工業高校は今も昔も変わることなく、優れた工業人を輩出し続けているのです。

何故旭川工業高校が70年間に渡って優れた人材を育てることが出来たか私が入学してから3年経とうとしていますが、3年間の学校生活の中で体感することが出来ました。広大な敷地と豊かな設備は当然のこと、優しさと厳しさを兼ね備えた頼りになる先生方、共に切磋琢磨できるクラスメイト達など、いろいろな理由がありますが、やはり旭工ブランドを支えているのは旭川工業高校を卒業した各方面の先輩方の日頃の努力とご活躍によるものが大きいです。この場を借りてお礼申し上げます。また、私達在校生も、いずれは旭川工業高校を卒業してそれぞれの進路で活躍する身です。先輩方に続いていけるように日々の学校生活の中から自分達一人一人のベストを尽くすことを約束します。

何かと先が見えない時代です。これからも旭川工業高校には喜ぶべき出来事や苦しい出来事が幾つも降りかかってくると思います。しかし70年の歴史と伝統を持つ旭川工業高校はどんなことにも屈さず、これから先も人材育成の最先端として日本の未来を切り開いて行くと感じています。また30年後、創立100周年記念の際にはさらに歴史を積み重ね自信と希望に満ち溢れた旭工生の姿を見ることを楽しみにしています。



流 転

定時制生徒会長 荒 碧 美

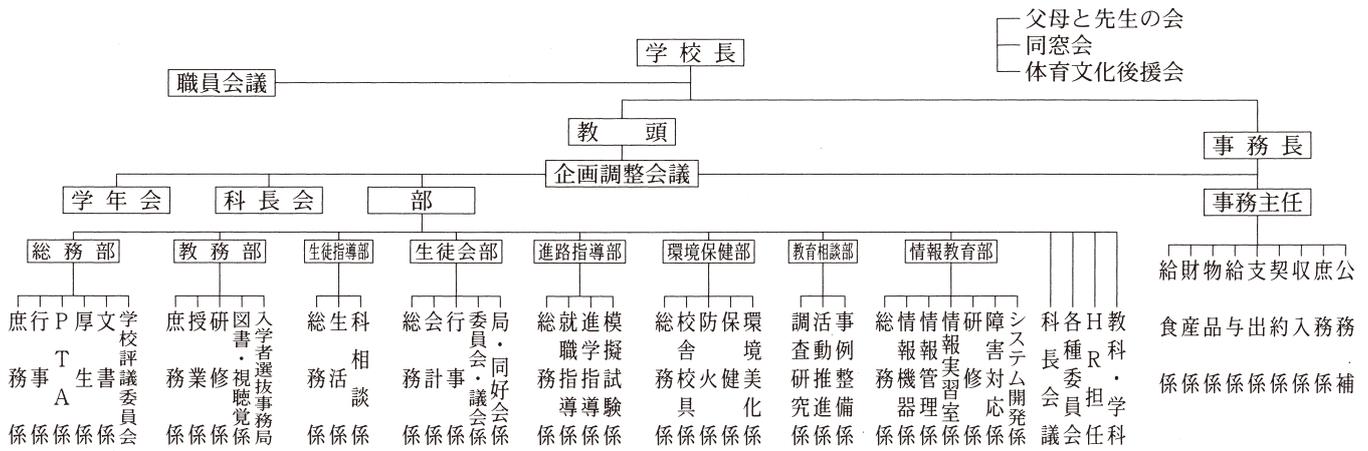
先日、私の家にお坊様がいらっしゃいました。その時、「私の通っている旭川工業高校は今年で70周年なんです」と話したら、「もうそんなになるんですか・・・」と、どこか懐かしそうな目をしておられました。実は、そのお坊様は旧校舎時代の旭川工業高校卒業生だったのです。今の校舎しか知らない私に、時間を見つけてはいくつかお話しをしてくださいました。「昔の体育館は天井がすごく低くて、バドミントンをした時にはいつもシャトルが引っかかったんですよ」など。

私はそんな時、ふと、時間の感じ方みたいなものを考えてしまいます。私のように、たかだか十数年しか生きていない身としては、恥ずかしながらも、70周年という重みやすごさが今ひとつピンと来ません。「すごいなあ」とか「さぞ大変だったんだろうなあ」とか、そんなことは感じることはできても、本当に理解しているかと問われると正直返答に困ります。けれど、お坊様のように旧校舎の時代の方からすれば、実感をもって思い起こされるのではと思います。

やはり歴史という時間の重みは、同じだけ、もしくはそれに近い時間を過ごした人にしかわからないのかも知れないと思います。いずれにせよ、今ここで勉強して、友達と笑って・・・そんな風に自分の人生の一部をつくってくれているものに対して、それは決して人や生物だけではなく、場所や出来事などすべてのものに【ありがとう】をいいたいです。そして、本校を巣立ち、今現在に至るまでに幾多の功績をあげられている素晴らしい先輩方に少しでも近づけるよう、そして伝統ある旭川工業高校の名に恥じぬよう、これからも努力と精進を重ねて行きたいと思います。

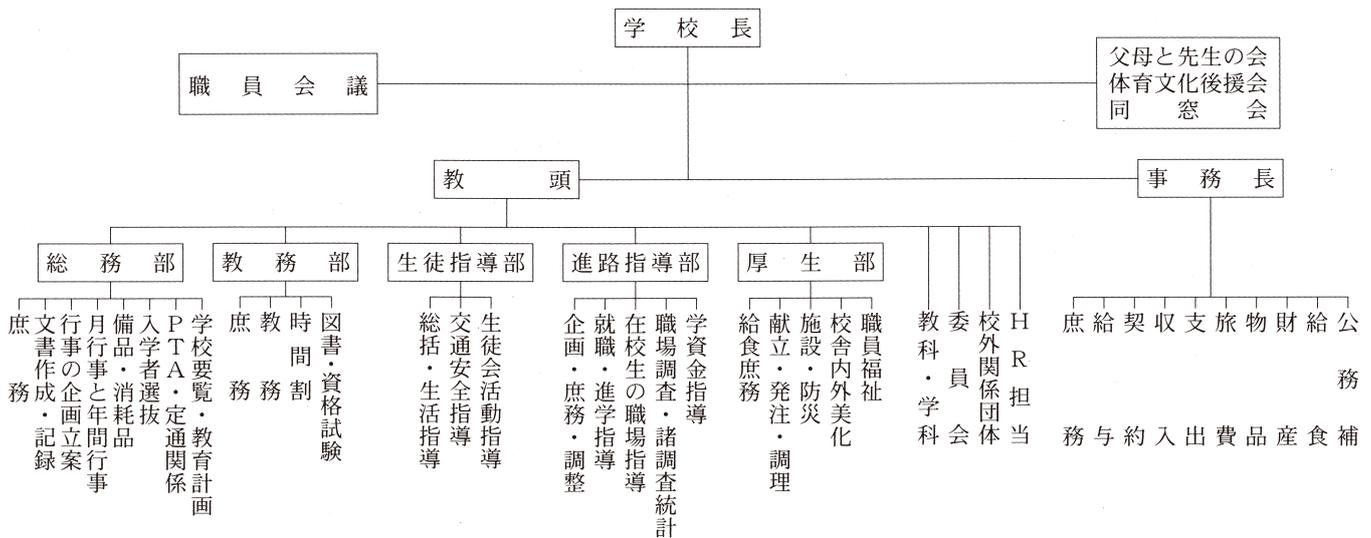
最後となりましたが、旭川工業高校創立70周年、誠にありがとうございます。

◇校務分掌 全日制



- ◎各種委員会……………保健委員会・部活動委員会・転入学審査委員会
教育課程検討委員会・朝日子の館委員会
衛生委員会・入学者選抜委員会・サポート委員会・業者選定委員会・留学委員会
- ◎各種会議……………企画調整会議・科長会議・教科主任会議・学年会議・部顧問会議

◇校務分掌 定時制



- ◎各種委員会……………校務委員会・給食委員会・部活動委員会・衛生委員会・入学者選抜委員会
教育課程委員会・研修委員会・転入学審査委員会・編入学審査委員会・特別支援委員会・新事業検討委員会
- ◎各種会議……………担任会議・教科主任会議・科長会議

全日制・定時制

教職員・旧職員

◇全日制課程 現職員一覧 (平成23年4月現在)

職名・教科名	氏名	就任年月	職名・教科名	氏名	就任年月
学 校 長	川崎博正	H 21.4	土 木 科	井内啓人	H 18.4
教 頭	田邊孝次	H 21.4		井角田竜二	H 15.4
国 語 科	浦木美佳	H 23.4		佐藤靖尚	H 22.4
	※ 松本和雄	H 20.4		※ 堀澤秀之	H 16.4
	三橋正信	H 18.4		宮川淳	H 11.4
	山本永	H 17.4		宮澤透	H 14.4
地歴公民科	江刺英男	H 20.4	電 気 科	遠藤康浩	H 23.4
	小原茂	H 21.4		業天眞由美	H 22.4
	嶋田章宏	H 21.4		穴戸良文	H 15.4
	野口隆	H 22.4		白木一倫	H 4.4
	※ 藤井崇之	H 22.4		※ 三原現	H 18.4
	三原一仁	H 23.4		小藤公啓	H 14.4
数 学 科	小川雅和	H 23.4		本林公義	H 17.4
	※ 櫻井和禎	H 16.4	情 報 技 術 科	磯島巧	H 14.4
	関村康則	H 23.4		大西一郎	H 21.4
	波岡知朗	休 職		※ 大鈴健治	H 8.4
理 科	犬飼良親	H 19.4		下村幸広	H 19.4
	※ 佐藤均	H 22.4		藤田朋軌	H 23.4
	宮崎和範	H 22.4		丘島朋広	H 2.4
	天坂匡志	H 22.4		佐藤孝幸	H 13.4
体 育 科	岩岡勝人	H 19.4	電 子 機 械 科	※ 浅間良則	H 7.4
	※ 中川均也	H 19.4		飯森登吾	H 5.4
	原拓也	H 11.4		石田雄吾	H 20.4
	平間慎理	H 16.4		岡崎一悟	H 20.4
	三谷公	H 23.4		黒瀬和孝	H 19.4
英 語 科	※ 上田和利	H 14.4		稲垣和一	H 7.4
	坂惠子	H 23.4		笹川桂洋	H 16.4
	佐藤英昭	H 1.4		佐藤中	S 63.4
	野村晃司	H 11.4		畑豊重	H 9.4
家 庭 科	増川秀之	H 20.4	自 動 車 科	※ 新井晃司	H 15.4
	※ 岩本恵美子	H 18.4		小原弘太	H 21.4
	菅野美樹	H 8.4		小池圭太	H 22.4
美 術	※ 後藤光代	H 19.4		小島貫勇	H 6.4
	佐藤佳人	H 12.4		新居悦郎	H 12.4
養 護	山手理恵子	H 10.4		黒木允晴	H 20.4
	山名敦子	H 21.4	事 務 長	及川一彦	H 23.4
工 業 化 学 科	安藤卓也	H 20.4		板橋孝幸	H 23.4
	※ 庄司淳	S 63.4		作田宏明	H 20.4
	野田春男	H 16.4		高野紀恵	H 21.4
	松山淳	H 15.4		馬淵真理子	H 23.4
	前田秀明	H 15.4	公 務 補	折坂政廣	H 22.4
	森信博	H 18.4			
建 築 科	河合亮一	H 18.4			
	※ 高島浩	H 19.4			
	堂向達也	H 19.4			
	前野潤	H 18.4			
	小川真輝	H 18.4			
	小野和幸	H 22.4			

※は教科主任・科長

◇全日課程 旧職員一覽

職名	氏名	着任年月	
平成14年3月離任			
学校長 教諭	堀田 虎雄	H11.4	
	土蔵 寛二	H 6.4	
	板谷 諭道	S59.4	
	森 裕美	H 9.4	
	佐藤 準	S61.4	
	白野 勝義	H 4.4	
	千葉 薫	H 9.4	
	上村 厚貴	H 9.4	
	実助 鈴木 博貴	H 5.4	
	北林 明	H 4.4	
事主任 事務職	水戸部 均	H 8.4	
	渡邊 俊	H11.4	
平成15年3月離任			
教頭 教諭	吉村 充	H13.4	
	内野 邦男	S52.4	
	川内 輝彰	S55.4	
	氏家 文彦	S61.4	
	谷口 忠一	S50.4	
	岡花 博文	S63.4	
	本郷 隆	S54.4	
	梅内 親	S54.4	
	木場 繁之	S59.4	
	菅原 修治	S61.4	
	高島 信行	S38.4	
	清水 次幸	S35.4	
	浦田 麻衣	H10.4	
平成16年3月離任			
学校長 事務長	塩見 洋二	H14.4	
	佐藤 吉勝	H13.4	
	清水 貞雄	S58.4	
	島本 紘一	S56.4	
	渡邊 祐二	H 9.4	
	相澤 包善	H12.4	
	澤橋 睦彦	H 3.4	
	柿原 幸一	H12.4	
	森 雅宏	H12.4	
	事務職 松浦 健二	H12.4	
平成17年3月離任			
教頭 教諭	横田 潤一	H15.4	
	内藤 佳和	H15.4	
	中島 正志	H13.4	
	実助 寺島 一男	S38.4	
	高橋 憲一	H14.4	
事主任 事務職	高橋 憲一	H14.4	
	平成18年3月離任		
	学校長 事務長	笹川 政久	H16.4
		林 守	H16.4
		高橋 昭	H16.4
村住 俊三		S41.4	

職名	氏名	着任年月	
事務長	島田 教男	H 6.4	
	山根 志津	H 7.4	
	和田 博之	H 4.4	
	村田 春美	S63.4	
	教諭	佐藤 信哉	H 6.4
		鈴木 悟	H14.4
		石原 康則	H16.4
	実助	富岡 秀規	H16.4
	平成19年3月離任		
	教諭	前野 和義	S47.4
吉野 一三		S54.4	
渡邊 茂男		S57.4	
佐藤 忠吉		H 6.4	
澤崎 真也		H15.4	
長島 恒介		H15.4	
古賀 満		H15.4	
小林 啓太		H18.4	
小島 誠		H18.4	
実助		佐藤 清志	H 9.4
平成20年3月離任			
学校長 教諭		千葉 敏春	H18.4
		西前 徹雄	H 9.4
	牧野 潤	H11.4	
	佐藤 章一	H 7.4	
	高橋 篤	H 8.4	
	諸橋 宏明	H13.4	
	塚川 詞将	H16.4	
	実助	佐々木 勝	H18.4
	事務調	金谷 一博	H14.4
	平成21年3月離任		
教頭 教諭	花松 正彦	H19.4	
	裏野 真澄	S53.4	
	小原 将規	H18.4	
	野家 義和	H17.4	
	樋口 知久	H 9.4	
	富田 望	H16.4	
	高田 安利	H21.11	
	養護 鏡 知香	H19.4	
	事主任	南部 豊	H18.4
	職員	辻井 里佳	H16.4
事務員 公務補	猪俣 美和	H20.4	
	佐藤 克幸	H20.4	
平成22年3月離任			
教諭	岩田 博昌	H19.4	
	村田 吉紀	H10.4	
	渡邊 周一	H15.4	
	石倉 望	H14.4	
	板谷 奈美	H18.4	
	本多 和也	H18.4	

職名	氏名	着任年月
実助 事主任	松田 徳博	H19.4
	梶田 亨	H19.4
	小川 浩幸	H15.4
	庄野 政文	H21.4
平成23年3月離任		
事務長 教諭	大野 誠二	H21.4
	原田 素行	H17.4
	白土 優	H15.4
	大友 俊彰	H 6.4
	木本 道子	H10.4
	遠藤 祥悦	H16.4
事主任	青山 幸司	H22.4
	白髭 考	H19.4
	清水 博之	H17.4

◇物故者

平成14年 逝去 教諭 (電子機械科) 桑本 諭一 着任 平成3. 4
平成14年 逝去 教諭 (保体) 伊藤 将憲 着任 昭和48. 4
平成17年 逝去 教諭 (建築科) 宮川 史寿 着任 昭和62. 4
平成19年 逝去 教諭 (定時国語科) 宮澤 謹次 着任 平成6. 4
平成20年 逝去 教諭 (国語科) 目良 迪彦 着任 平成14. 4
平成20年 逝去 教諭 (電気科) 北島 一範 着任 平成2. 4
平成20年 逝去 教諭 (定時電気科) 前田 勉 着任 昭和58. 4

◇定時制課程 現職員一覽 (平成23年4月現在)

氏名	就任年月	氏名	就任年月	氏名	就任年月
齊藤 穰	H 21.4	木下 隆文	H 10.4	松井 里枝	H 21.4
大石 貴也	H 18.4	小出 良子	H 14.4	武田 孝太郎	H 13.4
川口 真友子	H 20.4	佐藤 有紀	H 16.4	佐藤 雄紀	H 23.4
永澤 佳	H 20.9	中村 雪子	H 23.4	千葉 俊典	H 8.4
新保 敦	H 19.4	河村 浩	H 11.4	水野 達也	H 22.4
白鳥 貴久雄	H 19.4	今泉 幸喜	H 10.4	三好 浩一	H 8.4
辻岡 竜太郎	H 22.4	相内 強	H 21.4	齊藤 偉	H 18.4
永井 均	H 15.4	濱手 洋明	H 19.4	山田 聖治	H 3.4
大内 勝	H 18.4	東 健太郎	H 21.4	夕下 享洋	H 20.4
森谷 茂	H 23.4	樋上 諭	H 23.4	樋口 淳子	H 20.4
見延 三男	H 20.4	舟木 義雄	H 23.4	小瀬 恵介	H 22.4
小田 聖人	H 23.4	関野 茂之	H 10.4	小傳 住秀敏	H 23.4
兼子 敦	H 23.4	高須 勲	H 20.4	我妻 修子	H 12.4
大和 文明	H 15.4	松村 康弘	H 8.4	見山 智美	H 15.4

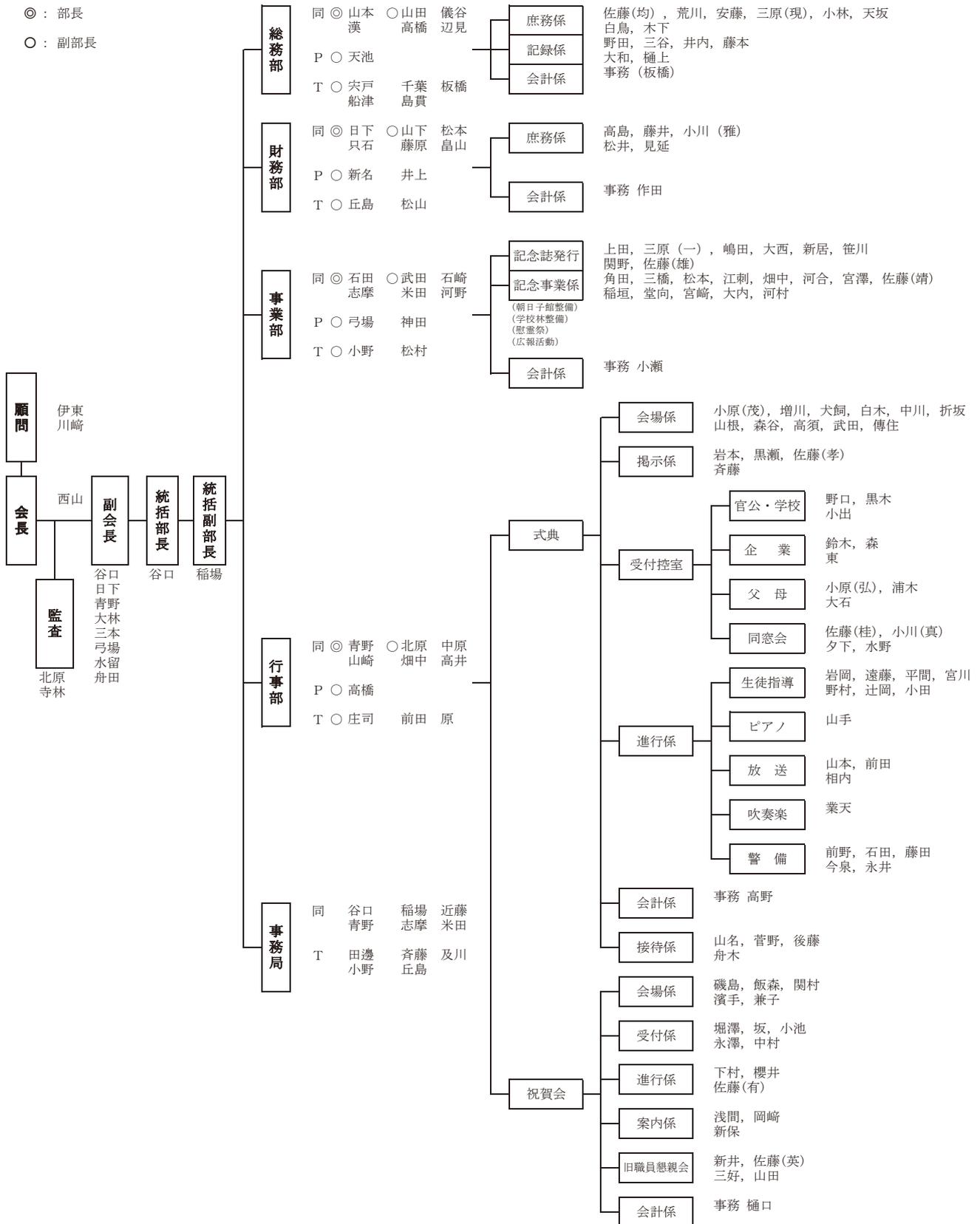
◇定時制課程 旧職員一覽

氏名	着任年月	氏名	着任年月	氏名	着任年月
平成14年3月離任		吉澤 捷元	H 8.4	平成21年3月離任	
坂本 清志	H 11.4	佐藤 貴美男	H 17.4	高橋 豪	H 18.4
高橋 比呂子	H 10.4	差ヶ久保 悟	H 17.4	高本 建司	H 17.4
西本 浩通	H 9.4	松岡 徹	H 13.4	早坂 浩之	H 17.4
加納 一志	H 9.4	松岡 明子	H 15.4	柴田 題寛	H 19.4
平成15年3月離任		平成19年3月離任		平成22年3月離任	
佐々木 輝明	H 7.4	大浦 徹	H 11.4	中島 謙介	H 16.4
新重 幹雄	H 11.4	長村 浩之	H 13.4	木田 明公子	H 21.4
立松 芳昭	S 63.4	船越 正志	H 18.4	丹羽 大紀	H 20.4
恩田 久美子	H 7.4	梁川 紋加	H 16.4	平成23年3月離任	
保科 祐司	H 14.4	松岡 信之	H 6.4	増田 恵治	H 10.4
平成16年3月離任		北側 智哉	H 12.4	加藤 幸司	S 59.4
木藤 宏伸	H 14.4	北宮 崎亜耶	H 15.4	高松 葉子	H 13.4
川村 悦男	H 5.4	平成20年3月離任		高野 純平	H 18.4
吉田 輝夫	S 52.4	森田 直文	H 16.4	北国 孝一	S 45.4
佐藤 敏一	H 8.4	駒野 司	H 16.4	加賀谷 奈美	H 19.4
香川 美紀	H 12.4	南 佳奈江	H 19.4	横山 和廣	H 16.4
平成18年3月離任		後藤 義広	H 11.4		
井畑 定哲	H 9.4	高畑 博幸	H 14.4		

北海道旭川工業高等学校創立70周年記念事業役割分担組織図

H23.9.20

◎：部長
○：副部長



北海道旭川工業高等学校創立70周年記念事業協賛会役員名簿

- 顧問 伊東 尚 川崎 博正
- 会長 西山 陽一
- 副会長 大林 厚志 三本 卓哉 谷口 保 日下 章
青野 敏 水留 英昭 舟田 清志
- 監査 寺林 秀一 北原 博

- 総務部
 - 部長 山本 博
 - 副部長 天池 恭永 山田 豊司
 - 理事 儀谷 直實 漢 利一 高橋 伴行 辺見 政好
穴戸 良文 千葉 俊典 板橋 孝幸 三原 現
島貫 勇次

- 財務部
 - 部長 日下 章
 - 副部長 新名 旭 井上恵一朗 山下 裕久
 - 理事 松本 康洋 只石 伸夫 藤原 秀樹 畠山 好司
丘島 広悦 松山 淳

- 行事部
 - 部長 青野 敏
 - 副部長 高橋 陽子 北原 博
 - 理事 中原 英敏 山崎 正一 畑中 幸夫 高井 康雄
庄司 淳 原 拓也 前田 秀明

- 事業部
 - 部長 石田 一彦
 - 副部長 弓場 朋子 神田 文治
 - 理事 武田 政則 石崎 隆久 志摩 広文 米田 信一
河野 克佳 小野 和幸 松村 康弘

- 事務局
 - 統括部長 谷口 保
 - 統括副部長 稲場 勇助
 - 部員 志摩 広文 近藤 武史 米田 信一 田邊 孝次
斉藤 穰 及川 一彦 小野 和幸 丘島 広悦

編集後記

北海道旭川工業高等学校創立70周年にあたり、記念事業の一環として記念誌「70周年史」が皆さんのご協力をいただき、本日刊行にこぎつけられたことを大変喜ばしく思います。

本集は、3月11日に東日本大震災がおこり日本中がパニックになり日本頑張ろうと言う声が多くなりました。その中で我々事業部も予算削減のなか学校敷地内の朝日子の館の環境整備と学校林の植樹・慰霊祭と滞りなく終了させて頂きました。

記念誌の作成に当たりましては現在の生徒達の活躍など掲載したいものが多くありましたが、ページの都合上、十分に意に尽くすことができなかった部分もあると思います。この場を借りてお詫び致します。

最後になりましたが、お忙しい時期にもかかわらず、ご寄稿頂いた方々をはじめ、写真・資料の収集など多くの皆様方のご理解、ご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。併せまして北海道旭川工業高等学校の関係者の皆様のさらなる発展と健勝をお祈り致します。

創立70周年記念協賛会事業部

旭 工 七 十 年 史

編集・発行者	北海道旭川工業高等学校 創立70周年記念協賛会
発 行 者	旭川市緑が丘東4条1丁目1-1 北海道旭川工業高等学校 電話(代) 0166-65-4115
印 刷 所	植平印刷株式会社 電話(代) 0166-26-0161

